

# 第37回 岡山戦災の記録と写真展

## 戦争の中の岡山市民の備え

入場  
無料

『焼夷弾爆撃三依ル焼失状況』(岡山市警防課防空本部作成 岡山市立中央図書館蔵)

平成26年6月19日(木)～7月6日(日)

休館日 6月23日(月)、30日(月)

会場 岡山シティミュージアム 4階展示室 TEL 086-898-3000

開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

主催 岡山市 共催 岡山市教育委員会

岡山空襲 展示室



JR岡山駅から東西連絡通路で直結  
岡山市北区駅元町15-1

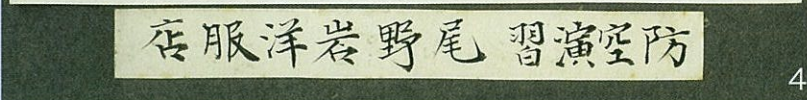
## 第37回 岡山戦災の記録と写真展 戦争中の岡山市民の備え

第二次大戦末期、日本の各都市が空襲を受ける中で岡山市も1945年(昭和20)6月29日、市街地を中心に大規模な空襲を受けました。焼夷弾の投下による猛烈な炎で避難を余儀なくされる中、危険を顧みずぎりぎりまで踏みとどまって消火にあたった人々もいました。

今回の写真展では、当時の岡山の人々がどのような備えをしていたのか、また岡山空襲の際の人々の様子はどうだったのかを残された資料を元にご紹介させていただきます。

### \*岡山空襲について

1944年(昭和19)から1945年(昭和20)にかけて、米軍による大規模な空襲が日本全土に行われました。岡山市は1945年(昭和20)6月29日に市街地中心を目標とした大規模な空襲を受け当時の住宅の約63%が失われ、少なくとも1737人をこえる死者が出ました。



1 防空演習風景 旧富田町近辺(個人蔵) 2 国策紙芝居「二人の警防員」(岡山空襲展示室蔵) 3「防空 岡山市」金属バッチ(岡山空襲展示室蔵)  
4 尾野岩洋服店広告展示の写真『稻荷神社・天神社 昭和三年度夏期祭典造物写真』より(個人蔵)

### 記念講演会 「国民防空」体制が出来るまで

日 時：7月5日(土)午後1時30分～午後3時

場 所：岡山シティミュージアム4階 講義室 先着80名 聴講無料

講 師：土田 宏成 さん(神田外語大学国際コミュニケーション学科准教授)

テクノロジーが発達した20世紀には、軍需生産力が戦争の勝敗を決定するようになりました。そして第一次世界大戦から、前線の軍隊だけでなく、生産を支える設備や国民をねらった空襲が始まります。第一次世界大戦で日本は空襲を経験しませんでしたでしたが、1923年(大正12)の関東大震災を教訓に、大地震や空襲への備えが求められるようになりました。こうして同時多発火災を想定し、国民を消防活動などに組織的に動員する防空演習が実施されます。昭和の戦争の時代に入ると、その動きは本格化し、1937年(昭和12)には防空を国民の義務とする防空法も制定されます。「国民防空」体制が全国的に整えられていく過程を踏まえて、岡山市のケースについて考えます。

### 展示解説

日 時：会期中の金・土・日曜日の午後2時から

講 師：岡山空襲展示室 学芸員

\*7月5日(土)のみ午前11時からとなります。

問い合わせ先

岡山空襲 展示室  
TEL 086-253-7070